資料1－3
科学技術・学術審議会 先端研究基盤部会
先端計測分析技術・システム開発委員会（第4回）
平成28年7月27日

平成28年度先端計測分析技術・機器開発プログラム応募・採択状況について

平成28年度公募及び採択状況

1. JST 先端計測分析技術・機器開発プログラム　平成28年度　公募類型別比較表
最先端研究基盤領域

公募期間：平成28年4月1日～5月12日（熊本地震被災者については5月23日）

類　型	（Ⅰ） 要素技術タイプ	（Ⅱ） 先端機器開発タイプ
開発期間	3年6ヶ月以内	4年6ヶ月以内
開発分野	最先端の研究開発やものづくり現場での計測・分析ニーズに応える先端計測分析技術・機器及び周辺システム ※ライフサイエンス分野における研究開発の基盤となる計測分析技術・機器・システムの開発も対象（ただし、医療・創薬を主たる目的とするものは対象としません）	
開発内容	新規性・独創性のある要素技術の開発	新規性・独創性のある機器の開発
到達目標	将来の革新的な計測技術又は機器につながる技術の確立	ユーザーが使用できるプロトタイプ機の完成
チーム構成	原則、産と学・官の連携が必須※1	産と学・官の連携が必須※2
採択予定数	数課題程度	
開発費の目安	1,000～2,500万円程度／年	1,000～5,000万円程度／年
	全額JST支出	

※1　最先端研究基盤領域の『要素技術タイプ』についても、原則として産と学・官が参画した体制構築を求めます。ただし、要素技術タイプでは革新的な提案を幅広く募るため、コーディネータや企業の研究開発関係者等による見解がある場合も産学連携の要件を満たすこととし、学・官のみの申請も可能としています。
※2　開発チームを組織するにあたり、特に先端機器開発タイプでは、以下の点に留意してください。
・計測分析ニーズに基づいた開発と適切な装置評価のため、計測分析機器のユーザーが参画することを強く推奨します。
・開発チームを組織するにあたり、特に先端機器開発タイプでは、開発成果を将来的に実用化できる体制を構築していることが望まれます。

2. AMED先端計測分析技術・機器開発プログラム　平成28年度　公募類型別比較表

公募期間：平成28年2月19日～4月6日

類　型	（Ⅰ） 要素技術タイプ	（Ⅱ） 先端機器開発タイプ
開発期間※1	2年7ヶ月以内	3年7ヶ月以内
開発目標	要素技術の原理確認	プロトタイプ機の性能確認
開発内容※2	L-1：将来の革新的医療機器（診断機器あるいは治療機器）につながる技術・機器・システムの開発 L-2：新たな診断・治療技術を生むためのターゲット（マーカーや症状）を探索解明することを目的とした計測分析技術・機器・システムの開発	
チーム構成	産と学が連携し、かつ医師（臨床医）が参画した開発チームを編成 ※若手研究者の応募を推奨	
契約方式	AMED―代表機関は委託契約（単年度契約） 代表機関―参画機関は再委託契約（単年度契約）	
採択予定数	数課題	数課題
開発費の目安 （直接経費と間接経費の合計）※3	26,000千円程度／12ヶ月	65,000千円程度／12ヶ月
	全額AMED支出	

※1　開発開始を平成28年9月1日を前提とした最大期間。
※2　平成28年度は治療機器も対象とします。
※3　間接経費は直接経費の30%以下とします。

3. JST 先端計測分析技術・機器開発プログラム　平成28年度　公募類型別応募状況

最先端研究基盤領域

類　型	（Ⅰ） 要素技術タイプ	（Ⅱ） 先端機器開発タイプ	合計
応募件数	79件	56件	135件
採択件数	数課題程度（予定）	数課題程度（予定）	
予想される採択倍率	―	―	約20倍

4. AMED 先端計測分析技術・機器開発プログラム　平成28年度　公募類型別応募・採択状況

類　型	（Ⅰ） 要素技術タイプ			（Ⅱ） 先端機器開発タイプ			合計
		L－1	L－2		L－1	L－2	
応募件数	76件	52件	24件	54件	43件	11件	130件
採択件数	6件	4件	2件	6件	4件	2件	12件
採択倍率	12.7倍	13倍	12倍	9倍	10.8倍	5.5倍	10.8倍